

第 85 回ラジオ mjc 『フェスティバル 2017 ゲストトーク後半』

お話：前「もりおか映画祭」実行委員長

特定非営利活動法人 日本映画映像文化振興センター会員 山田裕幸さん

内 容

貴重な土曜日にお越しくださいますありがとうございます。

今日は映画のことも交えていろんなお話をしたいと思うんですが、盛岡の映画祭に香川京子さんがいらしたことがあります。2014年ですね。2013年は倍賞千恵子さん、2015年は宝田昭さんがいらしたんですけども。お三方とも80を過ぎた段階でこちらにいらしたんですけども、非常に、そばで接してですね、高齢期をいかに生きてらいいのかということ、考えさせられる方々でした。よく俳優さん方に役作りってという言葉が使われることがあるんですけど、名だたる俳優さん方を見ていると、なんか役柄と人柄はやっぱり一致しますね。完璧な別人を演じているというよりもどこかで地が出てくるなってことがわかりました。

香川京子さんにしても、この方は昭和20年代に津島恵子さんなんかと一緒に、東映のひめゆりの塔ですね、ひめゆり学徒に出られたんですけど。未だにひめゆり部隊の生き残りの女性たちと交流が続いてまして、実際に交流を綴った本なんかも出されています。

東日本大震災にも非常に心を痛められて、東北と東京をしょっちゅう行き来していて、年齢が年齢だからボランティアなんかもできないのよね、なんて言ってましたけど。何かできることがあればと、ちょくちょく行き来はしていたようです。私が盛岡にお越しにしたいとお願いしに上京した時にもですね、盛岡は震災の被害、結構おありじゃなかったんですか、と言われて、私にその映画祭で何かお手伝いできるんでしたら喜んで伺います、二つ返事で言うてくださったんですね。

ところが東京に帰る当日にですね、ギャラをお渡ししようとしたら、マネージャーを通じて受け取れないと断られたんです。こちら少ない予算でひねり出したギャラをお支払いしないわけにはいかない。ところが、お受け取りできないって、結構頑なんですね。どうしてでしょうって聞いたらですね、マネージャーさんが私のところに来て、ささやくんですよ。東日本大震災の癒しの意味で来ただけですから、お金なんかどうでもいいんです、と香川が申しています。と伝えられまして、結局受け取ってもらえなかったんです。

ところが、帰り際に一緒にお昼を食べた時にですね、山田さん山田さん、と手招きするんで、はい、なんでしようって行ったら一枚の封筒を渡されたんです。

震災で飼い主からはぐれたワンちゃんや猫ちゃんいるでしょ。そういう猫ちゃんやワンちゃんを引き取って育てているような団体ってないんですか、このあたりに。って聞かれて、ああ、栗石町にそういった NPO 法人あったなあって思って、ありますよ、って言ったら、じゃあそういうワンちゃん、猫ちゃんのために使ってあげてくださいって言って渡されたんです。参りました、本当に。

その優しさに私はそれまでも好きな女優さんだったんですけど、ますます好きになっちゃいましたね。何て優しい人なんだろうと思ってですね、感激してしまったところです。

こういった 80 代になった方、70 代になった方の役者人生を実際に接しながら見てみると、やはり人間て素晴らしいものだなと思うんですよ。よくこの道何十年という言葉がありますけれども、なかなか自分が生きてきた道を語る機会のない方が圧倒的に多いわけですね。ほとんどがそういうことを語る機会もなくこの世を去っていくんですが、改めて、普段、自分の人生を語ることのないような人たちも大切にされなきゃいけないんだなあ、大切にしなければいけないんだなあ、ということをそういう役者さんたちの姿を通じて改めて学ばせてもらったとう気持ちが残りました。

この女性センターさんは面白いプログラムをいつも組んでいてくださって、私なんか男の身でありながらこちらで公開された映画をたくさん見させていただいて、いくら海外旅行に出かけたって上辺しか見ないで帰ってくるパターンが多いです。ところがこちらで上映されるたくさんの映画を見ていると、その国民のものの考え方だとか、その国の国民の暮らしだとかそういうものがリアルに描かれてますので。

今日の映画だってそうです、フランスに行ったってフランスのお年寄りの気持ちなんて手に取るようにわかりませんか。映画だからこそ知れるわけですので、是非この女性センターで企画される映画はこれからもご注目いただいて、私と一緒に楽しんでいただければと思います。どうもありがとうございます。